

子どもものいる暮らし―男・夫・父

## 子どもは体にいいらしい

田中 泰行

あいさつ療法のすすめ

子どもが体にいいからといって生野菜がいいとか、ドクダミが高血圧に効くというような話ではないので、くれぐれも子どもにかぶりついたり、煎じて飲んだりしないで欲しい。子ども

と暮らしているとどういうわけか元気が出てくるようだという話である。念のため。

幼稚園の職場に入って数年してからあるきっかけが元で、毎朝園の正門で登園してくる園児や保護者と挨拶を続けているが、これを始めて気がついたのは挨拶をしているうちに気分がよ

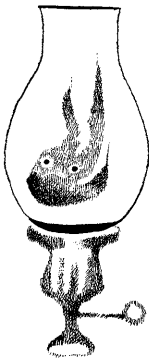
くなってくるということであった。登園時間の約三十分、次々と登園してくる子どもや保護者（殆どが母親）と一人一人挨拶を交わしているうちに不思議なほど気分が晴れてくるのである。ちよつとした悩み、むしゃくしゃ、いらいらなどは体内から湯気になって蒸発していくのがはつきり分かるような気がする。と書くところ「大袈裟な！」と舌打ちする人がいるでしょう。絶対いるんだ、そういう人。疑うなら、一度やってみてごらんなさい。ゼーったい効くって。仕事上の悩み、人間関係、失恋、夫婦ゲンカ、家庭争議、訴訟その他なんにでもいいみたい。ある時保護者会で調子に乗って、朝の挨拶は二日酔いにも効くんですなどと吹聴したために大いに顰蹙を買ってしまった（でも本当に効くんだけ。大きな声では言えないけど）。でもこの話をするに「子どもより若いお母さん達が効

くんじゃないですかあ？」なんていう奴がいる。冗談のつもりかも知れないが馬鹿だねえ。人を見てものを言えよ、人を見て。

### 自分の子どもはさらに効く

正門での挨拶を始めた頃と前後して長女が生まれた。初めて子どもを持つて思ったのはこいつのために体を大事にして頑張らなくちゃということ。考えてみればこれほど体にいいことはないよね。本人がそう思い込むんだから。ウーム、赤ん坊の力おそるべし。

しかしとても体に悪いこともあった。ある休



日の昼下がり。退屈なのでスヤスヤ眠っている赤ん坊の手や足をつつついたりして遊んでいたのが、ふと思い立って、その手のひらをそっと開いてみた時には愕然としたね。体中総毛立つというか目の前が真っ暗になるというか。生命線がないのである。もしや初めて授かったこの子の余命はいくばくも……。シヨックでしたよ。しかししばし茫然自失の後、父親はすくつと立ち上がるや猛然と本屋へ走ったね。手にとるはもちろん手相の本だ。食い入るように熟読しました。立ち読みで。結果は床にくずおれるほどの安堵感であった。赤ん坊には手相ができていないんですって（お陰様で長女は人一倍健康人間に育ってくれてます）。しかしあれは体によくなかった。特に心臓や血圧には大変よくなかった。

やがて一年半後に次女が生まれたが、これが

またとびきりの孝行娘であった。なにしろ幼児期よりぜんそく持ちで、そのため父親はそれまで一日三、四十本吸っていた煙草をすっぱりとやめることができたのだ。親孝行物語としてもこれ以上のものは考えられない。恩人といっても過言ではないであろう。完全禁煙から早や十六年、お陰で父の肺は今やすっかり赤子の如きみずみずしさ。ニコチンの汚れなど微塵も見当たらない新鮮さである。次女はその後小学校時代まで時々発作を起こし痛々しい思いをさせられたが、その後発作はすっかり影をひそめ、これまた今や元氣過ぎて手を焼いている。

その後三女、四女と相次いで生まれて来てくれたため父親はその度に「がんばらなくっちゃ」「体を大事にしなくっちゃ」と決意を新たにさせてもらった。お陰で、嘘偽りなくいうが就職以来二十八年病欠は一日もない。あり

がとう、やはり子どもは体にいいのだ。

他にも子どものお陰で体にいいことは枚挙にいとまがない。例えば六年間で四人の子どもを授かったわが家は当然のことながら毎日が戦場である。その中で父親も時として敢然と台所に立った。四人の子ども達を健やかに育て上げるために栄養のバランスと経済と時間の節約を考慮に入れると、たどり着いたのは鍋料理であった。要するにチャンコ鍋だね。肉、魚、貝、野菜類、キノコなどたっぷり入れて、それにワカメや豆腐とくればもはや無敵だ。効果は歴然、ぜんそくやアトピーが少しずつ出たものの、チャンコで育った娘達は大きな病気をしたことが全くない。

ただし副作用も出てしまった。栄養本位主義が過ぎたらしく、娘達は鍋料理にあまり好意を持たなくなつたようだ。それと父親が食べすぎ

て太ってしまったのはちよつと体によくならなかった。いつの世もバランスというのは難しいものだ。

### 効き目には限界が？

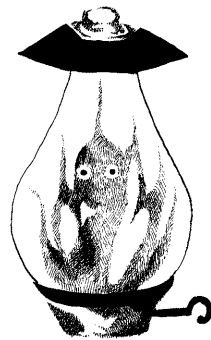
このようにめざましい子ども効果に恵まれてきた私であるが、最近になって気になる兆候が目立ってきた。例えば座っていた姿勢から立ち上がる時、まったく意図していないにもかかわらず自然に「ドッコイシヨ」とか「ヨイシヨ」というかけ声のようなものが口をついて出てくるようになった。あまつさえ物忘れがひどくなつてきたのも打撃である。これもすべて子どもパワーが私に届きにくくなつてきたのではないか。園の正門での挨拶は今まで通り続けているので家庭内の変化が原因であるとか考えられないのだが、やはり娘達が育ち過ぎてしま

い、私の波長とずれてしまったのに違いない。子どもパワーには年齢制限があったのだ。さて私はこれからいったいどうしたらよいのか、正直いって不安感が募るのを禁じ得ない今日の頃である。

子ども浴効果は存在するのだ(という気がする)

昔から自分が産んだ卵から孵化した幼虫に、自らの体を食わせる蜘蛛がえらいとか、若葉が出ると古い葉が落ちるユズリハが親の鑑だなんて言われるけど、今は事情が違ってきているように思うなあ。九十歳代の親を七十歳代の子どもが世話をする時代だよ。

「生理的未熟児」として生まれた人間は長いこと親の保護を必要とするって習ったけど、なにしろ少く見積もっても義務教育終了まで十五年、法律的にも子どもは親を生かしておかなく



てはならないわけだから、子どもは親を元気づけるシステムを持ち始めてるんじゃないのかなあ？ いや持つのが生物の知恵ではないのかなあ？

娘達が赤ん坊の頃、家の中には常にミルクやおしめなどの匂いが漂っていた。泣き声はともかく、赤ん坊の機嫌がよい時に発する「アー、ア」とか「ンク、ンク」といった柔らかな声が聞こえていた。室内には当然のことながら幼い子ども達のまだ清らかな呼吸器官から吐き出さ

れた空気が漂っていたが、あれにはきつと免疫効果なんかがあるに違いない。それに赤ちゃんの表情、手や足の動き、そして抱き上げた全身の感触、重さ。自分を頼りきって生きようとしている、小さいけど一人の人格としての重さなんだなあ。それが親を始めとする大人達に元気を与える。：ウン、ないほうがおかしい。あかちゃんや幼児が発する健康効果成分であるんだよ。絶対あるって。

### 子ども嫌いの社会になってきた？

ところが最近電車やバスの中に多数の幼児を連れて乗り込んでいくとよく分かるんだけど、子ども嫌いの人間が増えているっていうのがこの十年の実感であります。特に中高年で顕著に思えるんだ。若い人の反応は前からあんまり変わらない。子どもが乗り込んで来ると「迷惑こ

の上ない」という表情をする中高年が増えた。以前からそういう人はいたけれど、その数が増えたんだと思う。逆に小さい子どもや赤ちゃんが乗ってくると目を細めて見つめている中高年が減ったんだね。罰あたりなこと。

子どもが親を元気づけて自分もまた元気に生きていこうとする天然自然のシステム。いいなあ。誰か研究していないかなあ。でもそのパワーが届かなくなってきたということは、もしかしたら、もういらぬよってこと？

なんだか急に冷えてきたみたい。おお寒。

(向南幼稚園)